

ヨーロッパの石油備蓄岩盤

星野一男(燃料部)
Kazuo HOSHINO

石油を地下の岩盤内に貯蔵するという壮大な発想計画は スカンジナビア諸国でまず実現され 現在は広くヨーロッパ各所で広く実施されている。

地質ニュース314号(1980年10月) および本号で御紹介した

ように 現在ヨーロッパ諸国で 石油地下備蓄に利用されている岩盤は大別して2種類であり すなわち 先カンブリア系褶状岩盤と炭酸塩岩層に分けられる。

以下にそのいくつかの例をみてみよう。



写真1 スウェーデン南部、イエテボリ(Göteborg)石油備蓄基地の先カンブリア系片麻岩。この地下にスウェーデン最大の地下空洞群が建設されている。

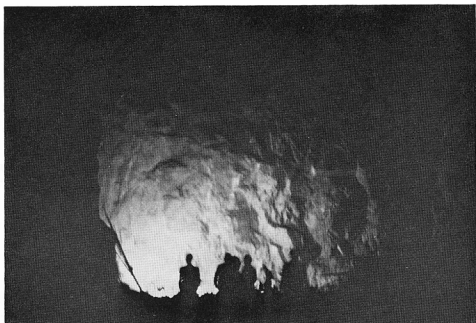


写真2 ストックホルム近傍の石油備蓄基地で目下掘削中の大空洞。
岩石は先カンブリア系片麻岩である。



写真3 フィンランド最大の石油地下備蓄基地 ボルボ（ヘルシンキ東方）の作業用トンネル入口。
岩石は先カンブリア系花崗岩で非常に堅硬である。

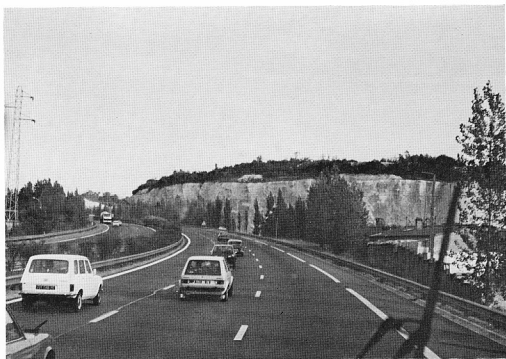


写真4 イギリスのドーバー海岸にある白亜系のチョーク（石灰）崖は著名であるが、同様のチョーク層は北フランスに広く分布し、石油備蓄岩盤となっている。写真は、パリよりノルマンディーに向う道路上のチョーク層

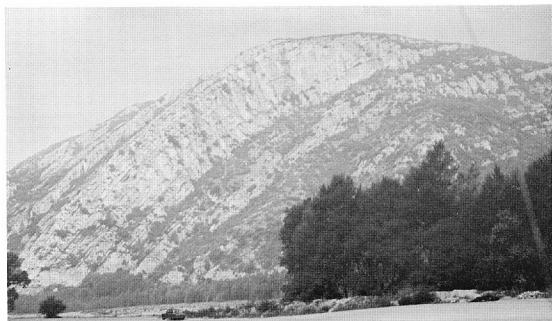


写真5 南フランスには古第3系から白亜系の岩塩、石灰岩層を利用した石油地下貯蔵施設（複数）がある。写真はマルセイユ北方の、おそらく白亜系ドロマイト質炭酸塩岩層である。



写真6 スイスでも最近 石灰岩岩盤中に石油備蓄空洞を建設する計画が進められている。
写真は予定地に近い リント溪谷のジュラ系石灰岩層 (Malmkalk など)



写真7 写真6の地域を空からみる。雲海の右手に連なる高峯群は ヘルベチア・
ナップ帯に属し その秀麗なる山容は スイス・アルプスの代表たるにふさわしい。